

## 長野県高等学校将来像検討委員会の審議のまとめについて

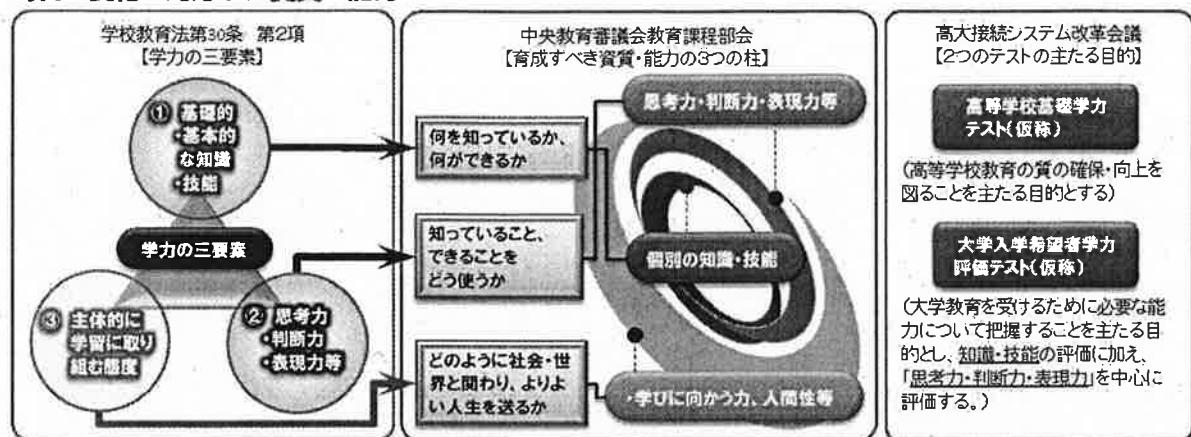
## 21世紀型教育のフロントランナーを目指して

## 1 高校教育を取り巻く背景

- (1) 社会情勢の変化 人口減少社会・少子高齢化社会の到来、グローバル化・高度情報化の進展  
 (2) 国の教育改革 高校教育改革・高大接続改革・大学教育改革の進行  
 (3) 更なる少子化の進行 平成41年度の中学校卒業予定者数は平成27年度の4分の3程度

## 2 新たな長野県高校教育の理念・望ましい姿・方向性

## (1) 時代の変化に対応した資質・能力



・高大接続改革により、「知識偏重」の従来の学力を、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」が問われる「21世紀型学力」へと変革することが求められている。

## (2) 長野県高校教育の基本理念

- ・全ての高校が多様化への対応を踏まえつつ、知識基盤社会を主体的に生き抜いていく力の養成をする観点に立った学校づくりを行う。

## 【基本理念】21世紀型学力育成のフロントランナーを目指す。

- 長野県高校教育の伝統と強みを活かす（「知・徳・体」、探究的な学び）
- 教員や高校生の参画と地域との対話に基づく高校教育改革の推進
- 共通性と卓越性・個性伸長の両面からの教育の質の確保
  - (共通性) 教科の知識・技能、人間関係構築力、コミュニケーション力、自ら学ぶ力
  - (卓越性・個性伸長) 伸びようとする力を伸ばし、探究的学びにより学びの楽しさを実感
- 長野県の特長を取り入れた教育（「信州学」等の豊かな自然環境や地域性を活かした学びの充実）

## 3 高校将来像検討の方針

## (1) 高校再編の必要性

- ・少子化に対する数合わせではなく、これを機にグローバルスタンダードを踏まえた学びの改革を実現し、教育の質を高め、高校生にふさわしい学びの場をつくること。

## (2) 教育の質を確保する学校規模と適正配置

- ・高校の小規模化への対策は必要であるが、都市部と中山間地域では異なる再編基準を設ける。

## (3) 中山間地域における高校と地域振興

- ・中山間地域の高校は高校生の学びの場であると同時に、地域振興の観点からも重要な役割。通学可能範囲に少なくとも1校の公立高校が存在する状態をできる限り維持することを目指し、高校教育としての質を維持できるぎりぎりの規模になるまで、所在する市町村など地域の協力も得ながら存続の道を探るところと積極的に再編統合等の適正規格化を検討するところがある。

## (4) 都市部における高校の規模の大きさを維持した魅力づくり

- ・多様なニーズへの対応、切磋琢磨、活発な自主活動等が可能である規模の大きさを維持し、魅力ある高校づくりを進められるよう積極的に対応する。  
 ・私立高校も合わせた各校の適正規模を考える必要がある。

## (5) 魅力づくりの方針

## ① 探究的な学科の創設

全ての高校に探究的な学びができる教育改革をしていくが、県内各地のけん引役となる高校に、SSH、SGHと並び、文系・理系にとらわれない探究科を設置する。

## ② 総合学科高校設置の検討（南信地区）

## ③ 多部制単位制高校設置の検討（北信地区、旧第9通学区）

## ④ 専門高校の充実策（小学科の再編、大学科の連携・融合）

## ⑤ 中高一貫校の検証と設置の検討（モデル校2校を検証の後、他地区への配置の是非を検討）

## ⑥ キャリア教育・インクルーシブを前提とした特別支援教育（全県的に推進）